

OSAKA 大阪

根っ子から

を、支えるタウン誌でありたい。

御堂筋新聞

ありがとうございます。

この一言に支えられ、新聞作りに励んでいます。

これからも、フリーペーパーだから私たちも気軽に目にする事ができる半面、発行する方から見ると、コスト面など苦勞も多いかと思いますが、楽しみにしていますので紙面の拡大や、地元の新しい話題、試写会などいろいろな情報を期待しています。

「大阪文化再発見 美味しくなった大阪の水」は知らないことがたくさん載っていて、とても勉強になりました。でも、美味しくなった水が処理場から家の蛇口にくるまでに、そのままの状態であるのかどうかはわからないので、やっぱり水道水をそのまま飲むのはまだちょっと不安が残ります。大切な資源である「水」について学ぶことはとても重要だと思いました。

「御堂筋彫刻ギャラリー」の撮影、7月1日に夕方にされてませんでしたか？彫刻の写真を撮ってらっしゃる男性を見て、「もしかしたら・・・」と思っていました。実は私、設置した1994年に富士銀行に入行したので（現在は退職していますが）、彫刻もとても愛着があるので、撮影現場を見れてとても嬉しいです。（間違っていたらすみません。）

紙面が少ないですが、どのページも興味深い内容なので、とても読みごたえがありました。大阪の歴史の記事が載る情報紙はなかなかないので、重宝させてもらっています。これからも引き続き、楽しい紙面をお願いします。

「編集記事」を読んで、毎月楽しませて頂いている裏には、こんな努力や思いがあるのを知って、感謝と共にさらに期待も膨らみました。

編集後記。やっぱり、新聞の面白さは、ここに凝縮されているのかも知れません。実は、以前私も社内報を担当してまして、編集後記を書くのにずいぶん悩んだものですから、皆様のご苦勞がよくわかります。<おもしろかった>

現在、紙媒体として復活する為、日々悪戦苦闘しております。

今後とも、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

御堂筋新聞編集スタッフ一同

- ・ 地域、読者、紙面の健全な関係
- ・ 小さくともキラリと光る情報の発信
- ・ 楽しくて役に立つ紙面創り
- ・ 目指すは読者参加型
- ・ 潤いをもたらす情報誌

1970年日本初のタウン誌としての創刊以来、御堂筋新聞は常に大阪に密着した情報紙でありたいと考えてきました。創刊38年を迎えた今年、WEB連動型の新しいタウン誌として生まれ変わりました。いよいよ12月号からは紙面も同時発行致します。新しい御堂筋新聞にご期待ください。

これからも皆様と一緒に歩んで行きたいと考えています。弊紙に対するご意見をお待ちしております。

御堂筋新聞

深堀 正晶